

サトリの
ココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、
仏教に興味を持つ人が増えています。
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——

日蓮宗了法寺住職
中里日孝さん

第35回

素直な気持ちを持つことで
自分の心も広くなります

なかざと・にちこう 1964年生まれ、東京都出身。赤坂にある圓通寺の次男として生まれる。中学卒業後は山梨県の身延山高校に入学し、寄宿生活を送る。1982年、立正大学仏教学部に入学。1989年に卒業。1990年より八王子市・了法寺の住職を務める。2009年、お寺の入口に設置した美少女系イラストの“萌え看板”が話題となり、“萌え寺”と呼ばれるように。http://ryochoji.jp/

ろから感じていました。

中学卒業後は父のすすめもあり、日蓮宗の総本山にある身延山高校へ。これからのどうすればいいのかという思春期の迷いも、お坊さんの世界に入って修行をすれば乗り越えていけるのではないかな……漠然と、そう考えていました。

がんばることに無理をして
心がガタガタに……

高校卒業後は立正大学の夜間部へ。2年間は勉強に集中できましたが、3年で昼間コースに転部すると学校へ行くことがイヤになり、2年留年してしまいました。そんなとき、病気の父に言われたのです。「大学に行きたくないなら、もう行かなくていいよ」と。その言葉に、これではダメだど一念発起し、なんとか大学を卒業しました。その後父が亡くなり、私は25歳で了法寺の住職になりました。私は「がんばらなければならぬ」という強い思いにとらわれていました。「檀家さんとコミュニケーションを取らなければならない」「お経をあげなくてはならない」……

思えば「しなればならない」「ばかりの人生。ついに私の心がガタガタと崩れてしまいました。がんばりすぎるのには限界があります。自分ができること、好きなことの中で布教ができないか……そんなことを考えていたとき、新しい出会いがあり、お寺の看板を作るようになりました。

看板を通して生まれた
新しい交流で心も素直に

いろいろな人が見て、立ち止まってくれる看板。了法寺の神様たちをキャラクターにした「萌え看板」ができ上がりました。さすがに最初に見たときは私も固まりました。でも同時に「これは楽しそう」と思ったのです。看板を見た人が一日でも気分よく過ごせるのなら、と設置を決めました。

この看板設置は、ネット上で広まり、若い男性なども訪れるようになりました。檀家さんのお子さんやお孫さんと話す機会も増え、今まで接点のなかった人たちとコミュニケーションが取れるようになったのです。

看板をきっかけに私の気持ちも変わりました。何事も固定観念にとらわれず素直な気持ちを持ち、受け入れることで、自分の心も広くなる……今はそう感じています。



(上)了法寺の入口にある“萌え看板”。芸能の神様でもある弁財天がイメージキャラクターに。イラストレーター・とろ美氏のデザイン。(右)2010年にはフィギュア作家・宮川武氏による「とろ弁天像」も奉納された。

©八福